

第20（13）話 比較三原則

皆さんはおそらく、「他者と比較するな」と言われたことがあるでしょう。でも、「するな」と言われてしなくなるほど、単純な問題ではありません。どうせ比較するなら、賢く比較できるよう、押さえておきたい三つの原則を紹介します。

原則①比較とは部分的なものに過ぎない。全体を表すものではない。

なのに私たちは、ある特定の部分がダメだとなったときに、自分って全部ダメ、と思ってしまう。そうじゃなくて、俯瞰的に見ていこう、ということです。

例えば、傷のあるデニム。傷だけ見るとみすぼらしいですが、全体的に見るといい味を出していて、「ビンテージデニム」と言われ、傷のないものより高値で取引されたりします。

仮に傷という欠点、短所は直らないとしても、そこを気にし過ぎず、それ以外の全体をキレイめに整えていくことで、自分の価値をかえて高められる、ということです。

小説でもアニメでも、魅力的なキャラには必ずダメどころがデザインされています。完璧なキャラに人は共感、感情移入しにくいからです。



原則②比較とは一時的なものに過ぎない。永続的なものではない。

なのに私たちは、「今だめだ」となったときに、「これからもずっとだめだ」と思ってしまう。そこは長い目で見ていこう、ということです。

好不調には波がある。なのに人は、不調の時に好調な人と比べて絶望したり、好調な時に不調の人を探し出してマウントを取ったりする。そうじゃなくて、泰然と構えていこう、ということです。

原則③比較とは相対的なものに過ぎない。絶対的なものではない。

私は時々、「あなた若いね」と言われることがあります。そんな時は、「私は福山雅治さんと同じ年なんですけど」と答える。逆にこの前、家族に「あなた老けたね」と言われた。「俺は磯野波平さんより年上なんだけど」と答えた。若いとか賢いとか可愛いとか、対象の取り方で結論が180度変わり得る。比較なんてその程度のものなのだから、絶対視せず、あくまで参考程度に使っていこう、ということです。

最後に、私たちは全員「ユニークピース」です。ユニークピースとは、一点物。この世に二つとないものです。厳密には他者と比較できない存在ではありますが、比較というツールも賢く、ほど良く使いながら、「自分」という一点物のデニムの価値を、日々高めていきましょう。